



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 M-ライフネット生命  
コード番号 7157 URL <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼COO (氏名) 岩瀬大輔

問合せ先責任者 (役職名) 企画部長 (氏名) 森亮介

TEL 03-5216-7900

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	6,495	15.8	△1,305	—	△1,290	—
26年3月期第3四半期	5,607	28.9	△1,577	—	△1,561	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△30.59	—
26年3月期第3四半期	△37.08	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	22,607	12,830	56.7	303.75
26年3月期	21,188	13,935	65.7	329.96

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 12,810百万円 26年3月期 13,916百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	経常収益	
	百万円	%
通期	8,500	11.8

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

このほかに、当社は、平成27年3月期の業績予想として、保険業法第113条繰延資産償却費考慮前の経常損失を800百万円(前期実績1,198百万円の経常損失)と開示しています。当社は、2012年度までに計上した保険業法第113条繰延資産について、開業10年目である2017年度まで年間1,060百万円を均等償却する予定です。詳細は、添付資料12ページ「1(6)業績予想」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	42,175,000 株	26年3月期	42,175,000 株
27年3月期3Q	— 株	26年3月期	— 株
27年3月期3Q	42,175,000 株	26年3月期3Q	42,105,815 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

本四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外です。なお、本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビューは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。  
当社は、平成27年2月13日(金曜日)午後4時30分から、機関投資家、アナリスト向けに、第3四半期決算の電話会議を開催する予定です。電話会議における説明内容は、終了後、当社株主・投資家情報ウェブサイト(<http://ir.lifenet-seimei.co.jp/>)に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 2014 年度第 3 四半期会計期間及び第 3 四半期累計期間決算の概要	
(1) 経営成績	1
(2) 財政状態	6
(3) トピックス	7
(4) 基礎利益	8
(5) ソルベンシー・マージン比率	10
(6) 業績予想	12
2. 四半期財務諸表	
(1) 四半期貸借対照表	13
(2) 四半期損益計算書	14
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	15
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	16
(セグメント情報等)	16
(その他)	16

以上

2015年2月13日

各位

会社名 ライフネット生命保険株式会社  
 代表者名 代表取締役社長兼 COO 岩瀬 大輔  
 (証券コード: 7157 東証マザーズ)

**ライフネット生命保険 2014年度第3四半期決算短信**  
**保有契約件数が21万件を突破**

ライフネット生命保険株式会社(URL: <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>) 本社: 東京都千代田区、代表取締役社長兼 COO 岩瀬大輔)の2014年度第3四半期会計期間(2014年10月1日~2014年12月31日)及び第3四半期累計期間(2014年4月1日~2014年12月31日)における決算の概要を以下のとおりお知らせします。

**1. 2014年度第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間決算の概要**

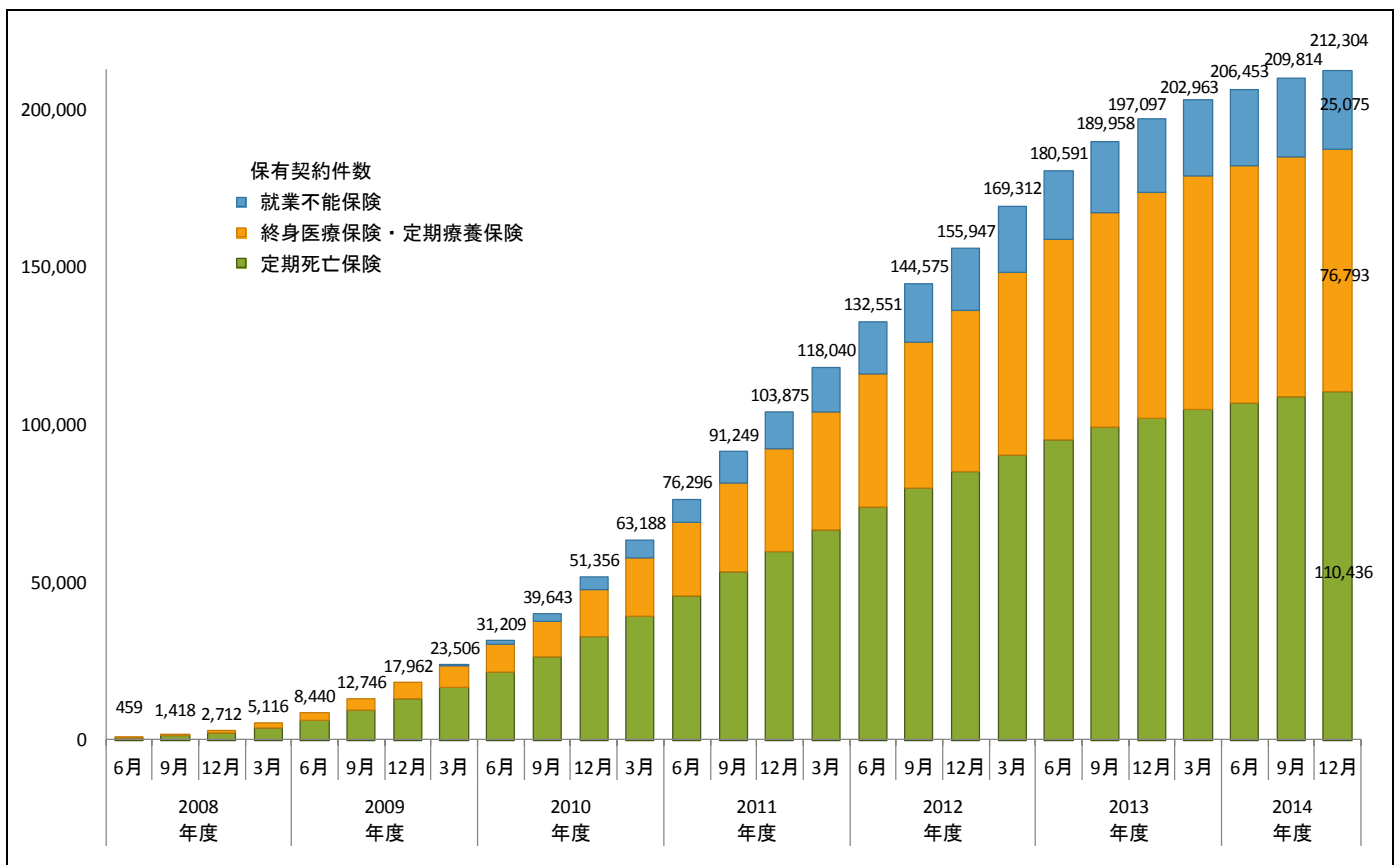
**(1) 経営成績**

**契約の状況**

2014年度第3四半期会計期間の新契約件数は、前年同期比59.2%の6,042件となった一方、新契約の年換算保険料は、2014年5月2日に、定期死亡保険のリニューアル及び終身医療保険の新商品を発売したことにより、1件当たりの保険料が増加したことから、前年同期比80.1%の301百万円となりました。これにより、第3四半期累計期間の新契約件数は前年同期比57.0%の21,095件、新契約の年換算保険料は前年同期比73.7%の996百万円となりました。また、2014年10月に保有契約件数が21万件を突破するとともに、第3四半期会計期間末時点の保有契約件数は、前事業年度末比104.6%の212,304件、保有契約の年換算保険料は、前事業年度末比106.6%の8,611百万円となりました。

また、当第3四半期累計期間の解約失効率は、5月の定期死亡保険のリニューアル及び終身医療保険の新商品の発売に伴い、旧商品からの乗り換えの影響などにより、7.4%(前年同期6.6%)となりました。

**保有契約件数の推移(件)**



# NEWS RELEASE



(単位:百万円)

新契約の状況(第3四半期)	2014年度	2013年度	前年同期比
申込件数	8,292件	13,385件	61.9%
新契約件数	6,042件	10,204件	59.2%
新契約金額(新契約高) <sup>*1</sup>	51,243	69,219	74.0%
年換算保険料 <sup>*2</sup>	301	376	80.1%
うち医療保障・生前給付保障等	154	195	78.9%

(単位:百万円)

新契約の状況(第3四半期累計期間)	2014年度	2013年度	前年同期比
申込件数	28,566件	50,266件	56.8%
新契約件数	21,095件	36,981件	57.0%
新契約金額(新契約高) <sup>*1</sup>	171,490	245,572	69.8%
年換算保険料 <sup>*2</sup>	996	1,352	73.7%
うち医療保障・生前給付保障等	517	712	72.6%

(単位:百万円)

保有契約の状況	2014年度 第3四半期 会計期間末	2013年度 第3四半期 会計期間末	2013年度末
保有契約件数	212,304件	197,097件	202,963件
内訳:「かぞくへの保険」(定期死亡保険)	110,436件	101,982件	104,604件
内訳:「じぶんへの保険」、 「新じぶんへの保険」、「新じぶんへの保険 レディース」(終身医療保険) <sup>*3</sup>	64,733件	60,343件	61,700件
内訳:「じぶんへの保険プラス」(定期療養保険)	12,060件	11,186件	12,504件
内訳:「働く人への保険」(就業不能保険)	25,075件	23,586件	24,155件
保有契約金額(保有契約高) <sup>*1</sup>	1,798,389	1,660,682	1,702,381
年換算保険料 <sup>*2</sup>	8,611	7,853	8,077
うち医療保障・生前給付保障等	3,866	3,504	3,613
保有契約者数	128,889人	118,454人	121,745人

(単位:%)

解約・失効の状況	2014年度 第3四半期 累計期間	2013年度 第3四半期 累計期間	2013年度
解約失効率 <sup>*4</sup>	7.4	6.6	6.6

- \*1. 新契約金額・保有契約金額は死亡保障額の合計であり、第三分野保険(医療保障・生前給付保障等)の保障額を含みません。
- \*2. 年換算保険料とは、1回当たりの保険料について保険料の支払い方法に応じた係数を乗じ、1年当たりの保険料に換算した金額をいいます。当社商品の保険料は全て月払いのみとなっているため、1ヶ月当たりの保険料に12を乗じたものを年換算保険料としています。
- \*3. 2014年度第3四半期会計期間末の終身医療保険の保有契約件数の内訳は、「じぶんへの保険」58,286件、「新じぶんへの保険」3,938件、「新じぶんへの保険レディース」2,509件です。また、2013年度第3四半期会計期間末の終身医療保険の内訳は、「じぶんへの保険」のみです。
- \*4. 解約失効率は、解約・失効の件数を月々の保有契約件数の平均で除した比率を年換算した数値です。

## NEWS RELEASE



## 収支の状況

当第3四半期累計期間の保険料等収入は、保有契約件数の増加に伴い、前年同期比 113.5%の 6,310 百万円となりました。また、資産運用収益は、前年同期比 197.8%の 82 百万円となりました。その他経常収益は、支払備金戻入額を計上したことにより、前年同期から大幅に増加し、101 百万円となりました。この結果、当第3四半期累計期間の経常収益は、前年同期比 115.8%の 6,495 百万円となりました。

保険金等支払金は、保有契約件数が増加したことなどにより、前年同期比 118.9%の 1,057 百万円となりました。保険金及び給付金支払額の保険料収入に対する割合は、前年同期と同じく、15.1%となりました。責任準備金等繰入額は、2014 年度第1四半期会計期間に再保険の影響により危険準備金を戻し入れたものの、保有契約件数が増加したことなどにより、前年同期比 121.3%の 2,629 百万円となりました。責任準備金繰入額の保険料収入に対する割合は、42.3%となりました。事業費は、当第3四半期会計期間に広告宣伝費をコントロールしたことなどにより、前年同期比 96.9%の 2,944 百万円となりました。事業費のうち、広告宣伝費を中心とした営業費用は前年同期比 93.4%の 1,350 百万円、保険事務費用は前年同期比 91.8%の 423 百万円、システムその他費用は前年同期比 103.5%の 1,170 百万円となりました。また、営業費用は第3四半期会計期間にコントロールしたものの、第1四半期会計期間に大幅に増加したことに加え、新契約件数が第3四半期累計期間で減少したことから、新契約1件当たりの営業費用は、前年同期の 39,110 円から増加し、64,028 円となりました。一方で、定期死亡保険のリニューアル及び終身医療保険の新商品の発売により、新契約1件当たりの年換算保険料は、前年同期の 36,567 円から 47,249 円に増加しました。保険業法第113条繰延資産償却費は、795 百万円となりました。これは、2012 年度までに計上した保険業法第113条繰延資産を、開業10年目である2017年度まで均等償却することによるものです。これらにより、当第3四半期累計期間の経常費用は前年同期比 108.6%の 7,801 百万円となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の経常損失は、前年同期の 1,577 百万円から、1,305 百万円となりました。なお、保険業法第113条繰延資産償却費を考慮する前の経常損失は、前年同期の 782 百万円から、510 百万円となりました。四半期純損失は、前年同期の 1,561 百万円から、1,290 百万円となりました。

また、生命保険会社の収益性を示す指標のひとつである基礎利益は、1,288 百万円のマイナス(前年同期 1,439 百万円のマイナス)となりました。詳細は、8 ページ「(4)基礎利益」に記載しています。

(単位:百万円)

収支の状況(第3四半期累計期間)	2014 年度	2013 年度	前年同期比
経常収益	6,495	5,607	115.8%
保険料等収入	6,310	5,559	113.5%
資産運用収益	82	41	197.8%
その他経常収益	101	5	1,833.2%
経常費用	7,801	7,184	108.6%
保険金等支払金	1,057	889	118.9%
責任準備金等繰入額	2,629	2,168	121.3%
うち危険準備金繰入額	17	138	13.0%
資産運用費用	0	0	373.2%
事業費	2,944	3,038	96.9%
営業費用	1,350	1,446	93.4%
保険事務費用	423	461	91.8%
システムその他費用	1,170	1,130	103.5%
その他経常費用	1,169	1,088	107.4%
うち保険業法第113条繰延資産償却費	795	795	100.0%
経常損失(△)	△1,305	△1,577	-
四半期純損失(△)	△1,290	△1,561	-
基礎利益	△1,288	△1,439	-
(参考)			
保険業法第113条繰延資産償却費考慮前経常損失(△)	△510	△782	-

# NEWS RELEASE



## 保険金等の支払いの状況

当四半期にお支払いした保険金等は、1,224 件、金額は 254 百万円となりました。内訳は、保険金 13 件、144 百万円、給付金 1,211 件、110 百万円です。この結果、当第 3 四半期累計期間にお支払いした保険金等は、3,667 件、937 百万円となりました。内訳は、保険金 44 件、600 百万円、給付金 3,623 件、337 百万円です。

当社は、「ライフネットの生命保険マニフェスト」(<http://www.lifenet-seimei.co.jp/profile/manifesto/>)において、生命保険会社の最も重要な社会的責務である保険金等の支払いを「正確に、遅滞なく」実行することを目指すとともに、保険金等の支払いに必要な書類の会社到着から原則 5 営業日以内に、指定口座に保険金等をお支払いしています。事実の確認や請求書類の不備の補完に要した日数を除き、当第 3 四半期累計期間において支払いに要した平均営業日数は 2.76 日となりました。2014 年 2 月に支払所要日数を最短 2 日に短縮するなど、引き続き迅速な支払いの実現に努めています。

(単位:百万円)

保険金等の支払の状況(第 3 四半期)	2014 年度	2013 年度	前年同期比
保険金及び給付金支払件数	1,224 件	1,348 件	90.8%
保険金支払件数	13 件	11 件	118.2%
給付金支払件数	1,211 件	1,337 件	90.6%
保険金及び給付金支払額	254	266	95.3%
保険金支払額	144	150	96.0%
給付金支払額	110	116	94.4%

(単位:百万円)

保険金等の支払の状況(第 3 四半期累計期間)	2014 年度	2013 年度	前年同期比
保険金及び給付金支払件数	3,667 件	3,338 件	109.9%
保険金支払件数	44 件	33 件	133.3%
給付金支払件数	3,623 件	3,305 件	109.6%
保険金及び給付金支払額	937	837	112.0%
保険金支払額	600	528	113.6%
給付金支払額	337	309	109.1%

## お客さまの声の状況

当四半期に当社に寄せられた総相談件数は、14,719 件、苦情件数は 218 件となりました。この結果、当第 3 四半期累計期間の総相談件数は、43,760 件、苦情件数は 692 件となりました。

当社は、「お客さまの声」を、保険商品・サービスをお客さまにとってより魅力あるものにしていくための貴重な経営資源としてとらえ、全社的に収集・管理・分析の上、サービスの継続的改善とお客さま満足度の向上を図るため、日々の事業運営に反映しています。

(単位:件)

お客さまの声の状況(第 3 四半期)	2014 年度	2013 年度	前年同期比
お客さまからの総相談件数	14,719	15,865	92.8%
苦情件数	218	290	75.2%

(単位:件)

お客さまの声の状況(第 3 四半期累計期間)	2014 年度	2013 年度	前年同期比
お客さまからの総相談件数	43,760	49,436	88.5%
苦情件数	692	911	76.0%

## NEWS RELEASE



## 資産運用の状況

当第3四半期会計期間においては、引き続き、リスクを限定した方針に基づき、主に国債を中心とした高格付けの公社債などの円金利資産で運用を継続しました。また、責任準備金の増加に伴い、ALMへの対応等を図るため、長期債への投資を行うとともに、資産運用の多様化を図るため、第2四半期会計期間から金銭の信託で外国債券への投資を開始しました。なお、資本業務提携を目的として保有している当社の保険募集代理店である株式会社アドバンスクリエイトの株式に加え、2013年9月に韓国の教保生命保険株式会社と合併で設立した教保ライフプラネット生命保険株式会社の株式を保有しています。

以上の運用方針の下、当第3四半期会計期間末の総資産は22,607百万円(前事業年度末 21,188百万円)、このうち、現金及び預貯金、金銭の信託に有価証券を加えた運用資産残高は17,736百万円(前事業年度末 15,573百万円)となりました。また、当第3四半期累計期間における運用資産全体の利回りは、0.66%となるとともに、当第3四半期会計期間末の有価証券の修正デュレーションは、長期債への投資により、前事業年度末の約3.49年から約9.14年となりました。

## その他の成果

当四半期においては、スルガ銀行株式会社と代理店契約を締結し、2014年10月20日から、スルガ銀行Dバンク支店のウェブサイトから保険の申し込みが可能となり、当社にとって初めての取組みとなる地方銀行での保険の販売を開始しました。また、豊通保険パートナーズ株式会社と代理店契約を締結し、2014年11月5日から、株式会社クラウドワークスが提供する「クラウドワークス」に登録するフリーランス向けに保険加入機会の提供を開始しました。さらに、ほけんの窓口グループ株式会社と代理店契約を締結し、2014年12月1日から、「ほけんの窓口」店舗の店頭窓口で、対面で相談の上、当社の保険商品をインターネットにて申し込むことが可能となりました。これらの施策により、より幅広いお客さまに当社の保険商品をお届けすることができます。

また、2014年10月7日に、当社のコンタクトセンターとウェブサイトが、HDI-Japanが主催する「HDI問合せ窓口格付け」で最高評価の3つ星を3年連続で受賞しました。2014年10月9日には、一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会®が主催するUCDAアワード2014において、当社の保険金・給付金の請求書類と手続きが、「企業や団体から発信されるコミュニケーション改善に、生活者の声を反映させている」という評価を受け、「アナザーボイス賞」を受賞しました。2014年12月1日には、2015年度版オリコン顧客満足度ランキング「生命保険部門」において、「商品内容の分かりやすさ」、「保険料」、「加入手続きの容易さ・早さ」、「申し込みの多様性」で最高評価を獲得し、総合第1位となりました。

加えて、2014年11月27日から、「生命保険もコスパで選ぶ」というキャッチコピーで、保険料の内訳の開示をPRする「オープン編」、女優の蓮佛美沙子さんが会長兼CEO出口の長い話を遮って要約する「出口会長のいいハナシ編」の2種類の新しいTVCMを開始しました。

なお、韓国の教保ライフプラネット生命保険株式会社が、2014年11月20日に資金調達のため新株式を発行したことにより、当社の同社に対する議決権比率は25.5%から11.7%に変更となり、同社は当社の関連会社でなくなりました。

当四半期のトピックスは7ページに記載しています。

「オープン編」



「出口会長のいいハナシ編」



新 TVCM (<http://www.lifenet-seimei.co.jp/cm/>)



# NEWS RELEASE



## (2) 財政状態

### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末の総資産は、22,607百万円(前事業年度末 21,188百万円)となりました。主な勘定残高として、高格付けの公社債を中心とした有価証券は、16,147百万円となりました。なお、責任準備金の増加に伴い、ALMへの対応等を図るため、長期債への投資を行うとともに、資産運用の多様化を図るため、第2四半期会計期間より、金銭の信託で外国債券への投資を開始しました。保険業法第113条繰延資産は、償却により、3,445百万円に減少しました。

負債は、保有契約件数の増加に伴い責任準備金が増加したことなどから、9,777百万円(前事業年度末 7,252百万円)となりました。主な勘定残高は、責任準備金 8,870百万円(うち、危険準備金 1,185百万円)、支払備金 284百万円となりました。

純資産は、四半期純損失の計上に伴い、12,830百万円(前事業年度末 13,935百万円)と減少しました。

当第3四半期会計期間末のソルベンシー・マージン比率は、2,095.7%(前事業年度末 1,922.2%)となり、十分な支払余力を維持しています。詳細は、10ページ「(5) ソルベンシー・マージン比率」に記載しています。

(単位:百万円)

資産、負債及び純資産の状況	2014年度 第3四半期 会計期間末	2013年度 第3四半期 会計期間末	2013年度末
資産	22,607	20,879	21,188
うち金銭の信託	1,023	1,000	1,000
うち有価証券	16,147	13,563	14,154
国債	7,940	6,044	6,636
地方債	636	-	-
社債	6,460	6,548	6,547
株式	213	205	206
外国証券	895	764	764
うち保険業法第113条繰延資産	3,445	4,505	4,240
負債	9,777	6,314	7,252
うち支払備金	284	301	375
うち責任準備金	8,870	5,410	6,240
うち危険準備金	1,185	1,136	1,167
純資産	12,830	14,564	13,935
ソルベンシー・マージン比率	2,095.7%	1,816.2%	1,922.2%

### キャッシュ・フローの状況

当第3四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、保険金等の支払いが増加したものの、保険料等収入が増加したことから、2,098百万円の収入(前年同期 1,373百万円の収入)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、長期債への投資などにより、1,946百万円の支出(前年同期 1,290百万円の支出)となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、6百万円の支出(前年同期 24百万円の収入)となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期会計期間末残高は、565百万円(前事業年度末 418百万円)となりました。

(単位:百万円)

キャッシュ・フローの状況(第3四半期累計期間)	2014年度	2013年度	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,098	1,373	725
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,946	△1,290	△655
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6	24	△30
現金及び現金同等物期首残高	418	353	-
現金及び現金同等物第3四半期会計期間末残高	565	459	-

## NEWS RELEASE



## (3)トピックス

2014年度第3四半期

- 10月2日 フジテレビ系列テレビ番組「アウト×デラックス」に代表取締役会長兼CEO出口治明が出演  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/information/2014/5604.html>
- 10月7日 コンタクトセンターとウェブサイトが「HDI問合せ窓口格付け」で最高評価3つ星を3年連続で受賞  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5619.html>
- 10月9日 保険金・給付金の請求書類と手続きがUCDAアワード2014「アナザーボイス賞」を受賞  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5624.html>
- 10月16日 資料請求・お申し込みいただいたお客さまを対象に「今年のうちスッキリ！プレゼントキャンペーン」を開始  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/campaign/2014autumn/>
- 10月20日 スルガ銀行Dバンク支店で保険販売を開始  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5638.html>
- 11月5日 豊通保険パートナーズを通じ、クラウドワークスのフリーランスへ保険加入機会の提供を開始  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5663.html>
- フリーランスの働き方とお金に関する調査  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5658.html>
- 11月25日 インターネットショッピングの動向(ボーダーライン)調査  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5679.html>
- 11月27日 「生命保険もコスパで選ぶ」新TVCMをスタート  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/information/2014/5686.html>
- 主婦1,000人に聞いた、夫が働けなくなるリスクに関する意識調査  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5688.html>
- 12月1日 全国の「ほけんの窓口」店頭における保険販売を開始  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5691.html>
- 2015年度版オリコン顧客満足度ランキング「生命保険部門」で総合第1位を獲得  
<http://www.lifenet-seimei.co.jp/newsrelease/2014/5694.html>

2015年度版 オリコン顧客満足度ランキング「生命保険部門」総合第1位を獲得



# NEWS RELEASE



## (4) 基礎利益

生命保険料の計算は、予定発生率(死亡率、入院率など)、予定事業費率(付加保険料部分)、予定利率の3つに基づいています。これらの「予定」と実績との差によって生命保険会社の利益(基礎利益)が生じていると考え、それぞれの差分を算出することによって、基礎利益がどのような要因から生じているのかを明らかにするのが利源分析の考え方です。<sup>\*1</sup>

- 危険差益(差損): 想定した保険金・給付金の支払額(予定発生率)と実際に発生した支払額との差
- 費差益(差損): 想定した事業費(予定事業費率)と実際の事業費支出との差
- 利差益(差損)もしくは順ざや(逆ざや): 想定した運用収益(予定利率)と実際の運用収益との差

\*1. 当社の利源分析は、保険数理上合理的な方法を採用していますが、具体的な計算方法は他の生命保険会社と異なることがあります。当社では保険料の内訳計算等について5年テイルメル式を採用し、解約・失効による利益(解約失効益)は、費差損益に含めます。

当第3四半期累計期間の基礎利益及び三利源の状況は以下のとおりです。

危険差益は、保険料等収入の増加及び支払備金の戻入により、1,251百万円に増加しました。一方、事業費は減少したものの、新契約件数も減少したことから、費差損は2,551百万円に拡大しました。また、資産運用収益の増加により、利差益を10百万円計上しました。これらの結果、基礎利益は1,288百万円のマイナスとなりました。

(単位:百万円)

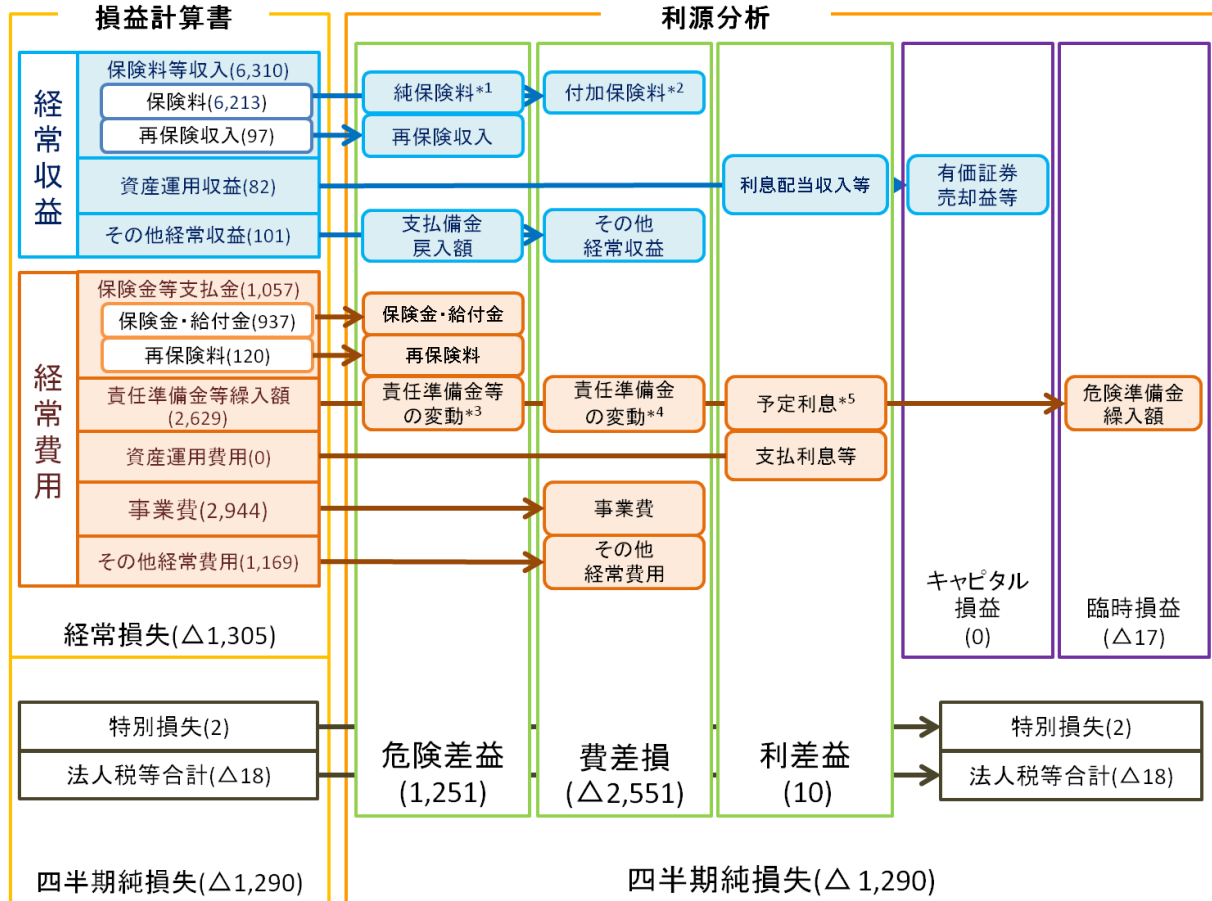
基礎利益の状況(第3四半期累計期間)	2014年度	2013年度	前年同期比
基礎利益 ①	△1,288	△1,439	-
危険差益	1,251	876	142.8%
費差損(△)	△2,551	△2,321	-
利差益	10	5	204.6%
キャピタル損益 ②	0	0	1,824.6%
臨時損益 ③	△17	△138	-
経常損失(△) ④(=①+②+③)	△1,305	△1,577	-
特別損益・法人税等 ⑤	15	16	97.2%
四半期純損失(△) ⑥(=④+⑤)	△1,290	△1,561	-

# NEWS RELEASE



## 三利源の考え方(2014年度第3四半期累計期間)

(単位:百万円)



- \*1. 保険料のうち、当年度の保険金等の支払に充てられる「危険保険料」と、将来の支払に備えて保険料積立金の積み立てに充てられる「貯蓄保険料」からなります。
- \*2. 保険料のうち、会社の事業費などの支出に充てられる部分です。
- \*3. 保有契約の保険料積立金の純増加分(上記の貯蓄保険料で賄われる)及び死亡契約などで支払に充てるために取り崩される分などからなります。
- \*4. 契約の解約・失効により、積み立てを要しなくなったため取り崩される保険料積立金です。
- \*5. 保険料積立金の計算にあらかじめ織り込まれている利息分です。
- \*6. 金額微小の項目については、一部省略しています。

# NEWS RELEASE



## (5) ソルベンシー・マージン比率

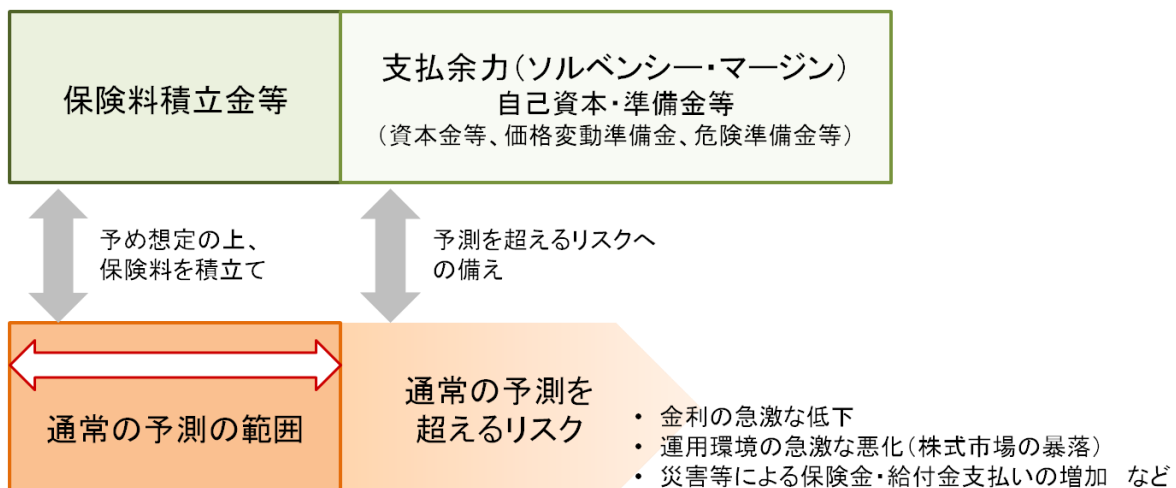
当第3四半期会計期間末のソルベンシー・マージン比率は、前事業年度末に比べ増加し、2,095.7%となりました。これは、純資産が減少したものの、教保ライフプラネット生命保険株式会社が関連会社でなくなったことにより資産運用リスクが減少したこと及び再保険を締結したことが、リスクの合計額が減少した主な要因です。

(単位:百万円)

	ソルベンシー・マージン 総額	÷	リスクの合計額 × (1/2)	=	ソルベンシー・マージン 比率
2014 年度 第 3 四半期会計期間末 (2014 年 12 月末)	12,857		1,227 × (1/2)		2,095.7%
2013 年度末 (2014 年 3 月末)	12,173		1,266 × (1/2)		1,922.2%
2013 年度 第 3 四半期会計期間末 (2013 年 12 月末)	11,226		1,236 × (1/2)		1,816.2%

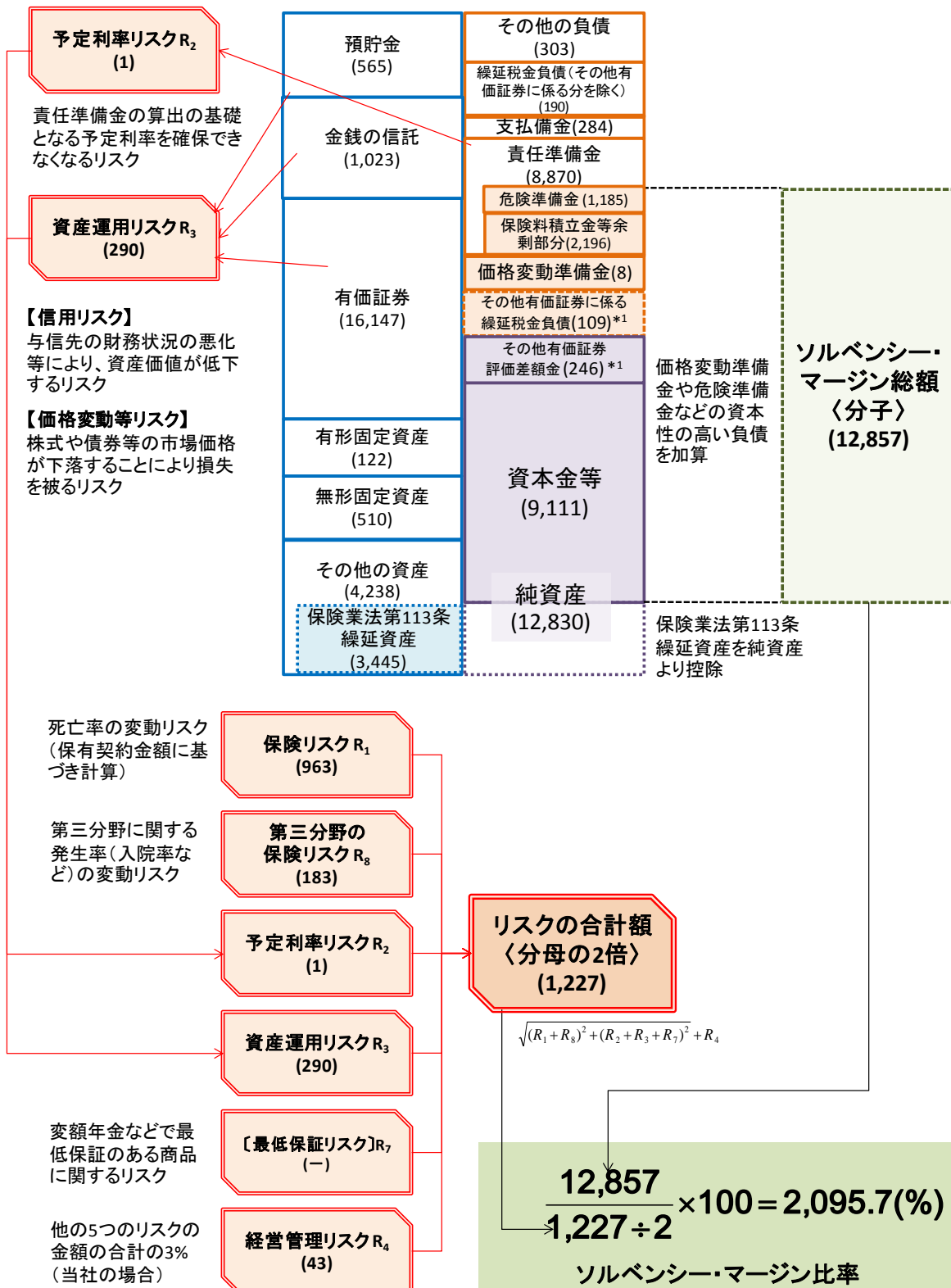
## ソルベンシー・マージン(支払余力)の考え方

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株式市場の暴落など、通常の予測の範囲を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかどうかを判断するための経営指標・行政監督上の指標のひとつです。具体的には、純資産などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージンの総額=支払余力)を、定量化した諸リスクの合計額で除して求めます。なお、ソルベンシー・マージン比率が 200%以上であれば、行政監督上、健全性に係るひとつの基準を満たしているとされます。



ソルベンシー・マージン比率の計算(2014年度第3四半期会計期間末)

(単位:百万円)



当社で該当するものがない項目や金額が微少な項目については、一部[]で囲んで表記しているものを除き、省略しています。

\*1. その他有価証券の評価換算差額金(税引前)の90%(マイナスのときは100%)。

## NEWS RELEASE



## (6) 業績予想

2014年度(2015年3月期)の業績予想は、2014年11月13日に発表したものから、変更ありません。2014年度の業績予想は以下のとおりです。

なお、2015年度までは、中期計画の経営目標に準じた科目、すなわち経常収益及び保険業法第113条繰延資産償却費考慮前の経常損益で、業績予想を開示します。

(百万円)

	経常収益	経常損失 <sup>*1</sup>
2014年度業績予想	8,500	△800

\*1. 保険業法第113条繰延資産償却費考慮前経常損益ベース

当社は、2012年度までに計上した保険業法第113条繰延資産について、開業10年目である2017年度まで年間1,060百万円を均等償却する予定です。このため、中期計画及び業績予想において、実質的な会計損益である保険業法第113条繰延資産償却費を考慮する前の経常損益を用いています。

引き続き、当社は、毎四半期における決算発表、業績速報等の実績値の開示の充実など、マニフェストに掲げている積極的な情報開示を推進することで、ステークホルダーの皆さまの当社に対する理解の促進に努めます。

#### ライフネット生命について URL: <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>

ライフネット生命保険は、相互扶助という生命保険の原点に戻り、「正直に経営し、わかりやすく、安くて便利な商品・サービスの提供を追求する」という理念のもとに設立された、インターネットを主な販売チャネルとする新しいスタイルの生命保険会社です。インターネットの活用により、高い価格競争力と24時間いつでも申し込み可能な利便性を両立しました。徹底した情報開示やメール・電話・対面での保険相談などを通じて、お客さまに「比較し、理解し、納得して」ご契約いただく透明性の高い生命保険の選び方を推奨し、「生命(いのち)のきずな＝ライフネット」を世の中に広げていきたいと考えております。

会社及び商品の詳細は <http://www.lifenet-seimei.co.jp/> をご覧ください。

株主・投資家向けの情報は <http://ir.lifenet-seimei.co.jp/> をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先  
03-5216-7900(広報:関谷/IR:近藤)

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2014年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2014年12月31日)
<b>資産の部</b>		
現金及び預貯金	418	565
金銭の信託	1,000	1,023
有価証券	14,154	16,147
国債	6,636	7,940
地方債	—	636
社債	6,547	6,460
株式	206	213
外国証券	764	895
有形固定資産	82	122
無形固定資産	589	510
代理店貸	0	0
再保険貸	1	34
その他資産	4,941	4,204
未収金	590	631
保険業法第113条繰延資産	4,240	3,445
その他の資産	110	126
資産の部合計	21,188	22,607
<b>負債の部</b>		
保険契約準備金	6,616	9,154
支払備金	375	284
責任準備金	6,240	8,870
代理店借	4	4
再保険借	19	42
その他負債	356	257
特別法上の準備金	6	8
価格変動準備金	6	8
繰延税金負債	250	311
負債の部合計	7,252	9,777
<b>純資産の部</b>		
資本金	10,500	10,500
資本剰余金	10,500	10,500
利益剰余金	△7,173	△8,463
株主資本合計	13,827	12,537
<del>その他有価証券評価差額金</del>	89	273
<del>評価・換算差額等合計</del>	89	273
<del>新株予約権</del>	19	19
純資産の部合計	13,935	12,830
負債及び純資産の部合計	21,188	22,607



(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年12月31日)
経常収益	5,607	6,495
保険料等収入	5,559	6,310
保険料	5,531	6,213
再保険収入	28	97
資産運用収益	41	82
利息及び配当金等収入	41	80
金銭の信託運用益	0	1
有価証券売却益	—	0
その他経常収益	5	101
支払備金戻入額	—	91
その他の経常収益	5	10
経常費用	7,184	7,801
保険金等支払金	889	1,057
保険金	528	600
給付金	309	337
その他返戻金	0	0
再保険料	52	120
責任準備金等繰入額	2,168	2,629
支払備金繰入額	36	—
責任準備金繰入額	2,131	2,629
資産運用費用	0	0
支払利息	0	0
その他運用費用	—	0
事業費	※ 3,038	※ 2,944
その他経常費用	1,088	1,169
経常損失(△)	△1,577	△1,305
特別損失	12	2
減損損失	10	—
特別法上の準備金繰入額	1	2
価格変動準備金繰入額	1	2
税引前四半期純損失(△)	△1,590	△1,308
法人税及び住民税	2	2
法人税等調整額	△32	△21
法人税等合計	△29	△18
四半期純損失(△)	△1,561	△1,290

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 2013年4月1日 至 2013年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2014年4月1日 至 2014年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失 (△)	△1,590	△1,308
減価償却費	148	166
減損損失	10	—
支払備金の増減額 (△は減少)	36	△91
責任準備金の増減額 (△は減少)	2,131	2,629
価格変動準備金の増減額 (△は減少)	1	2
利息及び配当金等収入	△41	△80
有価証券関係損益 (△は益)	—	△0
支払利息	0	0
代理店貸の増減額 (△は増加)	0	0
再保険貸の増減額 (△は増加)	8	△32
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)	714	756
代理店借の増減額 (△は減少)	0	△0
再保険借の増減額 (△は減少)	3	23
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)	△136	△59
その他	0	△1
小計	1,288	2,003
利息及び配当金等の受取額	89	99
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△3	△4
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,373	2,098
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
金銭の信託の増加による支出	△1,000	—
有価証券の取得による支出	△13,207	△5,201
有価証券の売却・償還による収入	13,120	3,415
資産運用活動計	△1,087	△1,786
営業活動及び資産運用活動計	286	312
有形固定資産の取得による支出	△44	△80
無形固定資産の取得による支出	△159	△79
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,290	△1,946
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	30	—
リース債務の返済による支出	△6	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	24	△6
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	106	146
現金及び現金同等物の期首残高	353	418
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 459	※ 565

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、生命保険事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(その他)

四半期損益計算書関係

※ 事業費の内訳は次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自2013年4月1日 至2013年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2014年4月1日 至2014年12月31日)
	(百万円)	(百万円)
<b>営業活動費</b>		
募集代理店経費	33	33
選択経費	2	1
営業活動費小計	36	35
<b>営業管理費</b>		
広告宣伝費	1,205	1,039
営業管理費小計	1,205	1,039
<b>一般管理費</b>		
人件費	752	778
物件費	1,040	1,087
負担金	3	4
一般管理費小計	1,796	1,870
合計	3,038	2,944

(注) 1. 一般管理費・物件費の主なものは、保険事務・システム等の契約の維持・管理に際して必要な経費等であります。

2. 負担金は、保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する負担金であります。

四半期キャッシュ・フロー計算書関係

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高は、四半期貸借対照表に掲記されている現金及び預貯金と同額であります。

金融商品関係

前事業年度(2014年3月31日)

(単位:百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預貯金	418	418	—
(2)金銭の信託	1,000	1,000	—
(3)有価証券	13,390	13,383	△6
満期保有目的の債券	7,591	7,585	△6
その他有価証券	5,798	5,798	—
(4)その他資産 未収金	590	590	—

当第3四半期会計期間(2014年12月31日)

(単位:百万円)

	四半期貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預貯金	565	565	—
(2)金銭の信託	1,023	1,023	—
(3)有価証券	15,251	15,691	440
満期保有目的の債券	8,346	8,786	440
その他有価証券	6,905	6,905	—
(4)その他資産 未収金	631	631	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに金銭の信託及び有価証券に関する事項

(1)現金及び預貯金

当社は、満期がない預金のみを保有しており、それらの時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2)金銭の信託

金銭の信託における信託財産の構成物の時価は、2014年12月末日(前事業年度は2014年3月末日)の取引所又は取引先金融機関から入手した価格等によっております。また、保有目的ごとの金銭の信託に関する事項については、注記事項「金銭の信託関係」をご参照下さい。

(3)有価証券

有価証券の時価は、2014年12月末日(前事業年度末は2014年3月末日)の取引所又は取引金融機関から入手した価格等によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4)その他資産 未収金

未収金については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位:百万円)

区分	前事業年度 (2014年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2014年12月31日)
外国証券	764	895

外国証券については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)有価証券」には含めておりません。

有価証券関係

1. 満期保有目的の債券

前事業年度 (2014年3月31日)

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
公社債			
国債	5,287	5,271	△16
社債	2,304	2,314	9
合計	7,591	7,585	△6

当第3四半期会計期間 (2014年12月31日)

(単位：百万円)

	四半期貸借対照表計上額	時価	差額
公社債			
国債	6,250	6,655	405
地方債	100	110	10
社債	1,996	2,019	23
合計	8,346	8,786	440

2. その他有価証券

前事業年度 (2014年3月31日)

(単位：百万円)

	取得原価	貸借対照表計上額	差額
公社債			
国債	1,343	1,349	5
社債	4,225	4,243	17
株式	100	206	105
合計	5,669	5,798	128

当第3四半期会計期間 (2014年12月31日)

(単位：百万円)

	取得原価	四半期貸借対照表計上額	差額
公社債			
国債	1,637	1,690	53
地方債	501	536	35
社債	4,424	4,464	39
株式	100	213	112
合計	6,664	6,905	241

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表には含めておりません。

金銭の信託関係

その他の金銭の信託（運用目的、満期保有目的及び責任準備金対応以外）

前事業年度（2014年3月31日） (単位：百万円)

	取得原価	貸借対照表計上額	差額
その他の金銭の信託	1,000	1,000	—

当第3四半期会計期間（2014年12月31日） (単位：百万円)

	取得原価	四半期貸借対照表計上額	差額
その他の金銭の信託	1,001	1,023	22

デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

持分法損益等

	前事業年度 (2014年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2014年12月31日)
関連会社に対する投資の金額	764 百万円	— 百万円
持分法を適用した場合の投資の金額	686	—
	前第3四半期累計期間 (自2013年4月1日 至2013年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2014年4月1日 至2014年12月31日)
持分法を適用した場合の投資損失の金額（△）	— 百万円	△305 百万円

(注) 関連会社であった教保ライフプラネット生命保険株式会社について、2014年11月20日に新株発行を行ったため、同社は関連会社ではなくなっております。従って、当第3四半期会計期間の「関連会社に対する投資の金額」及び「持分法を適用した場合の投資の金額」には、同社に対する投資の金額及び持分法を適用した場合の投資の金額を含めておりませんが、当第3四半期累計期間の「持分法を適用した場合の投資損失の金額（△）」には、当該関連会社であった期間における持分法を適用した場合の投資損失の金額を含めております。

1株当たり情報等

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自2013年4月1日 至2013年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2014年4月1日 至2014年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	37.08円	30.59円
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額（百万円）	1,561	1,290
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額（百万円）	1,561	1,290
普通株式の期中平均株式数（株）	42,105,815	42,175,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額を計上しているため、記載しておりません。

重要な後発事象

該当事項はありません。